



2025 年 8 月 7 日

各 位

会社名 セーラー万年筆株式会社
代表者名 代表取締役社長 田村 光
(コード番号 7992 東証スタンダード市場)
問合せ先 常務取締役 管理本部長 木村 孝
(TEL 03-6670-6601)

2025 年 12 月期第 2 四半期(中間期)連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2025 年 2 月 14 日に公表いたしました 2025 年 12 月期第 2 四半期(中間期)連結業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、2025 年 12 月期通期連結業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

2025 年 12 月期第 2 四半期(中間期)連結業績予想と実績値との差異(2025 年 1 月 1 日～2025 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1 株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,482	△64	△62	△66	△2.23
今回実績 (B)	2,117	△119	△117	△130	△4.39
増減額 (B - A)	△364	△55	△55	△64	—
増減率 (%)	△14.7%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2024 年 12 月期第 2 四半期 (中間期))	2,094	△280	△220	△244	△8.26

2025 年 12 月期通期連結業績予想の修正(2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,336	10	8	0	0.00
今回修正予想 (B)	4,537	△176	△180	△206	△6.95
増減額 (B - A)	△799	△186	△188	△206	—
増減率 (%)	△15.0	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2024 年 12 月期)	4,677	△270	△216	△1,145	△38.65

●業績予想と実績との差異並びに業績予想修正の理由

(文具事業)

国内においては、物価高騰や価格改定等の影響で個人消費の鈍化もありながら、主力製品である万年筆及び万年筆インクを中心にインバウンド需要の取り込みや主要販売店への積極的な拡販施策を実施してまいりました。併せて、昨年に引き続き、エントリークラス製品の導入促進により万年筆ユーザーの裾野拡大に努めてまいりました。海外においては、中国の不況の影響が大きく、昨年に比べて大きく落ち込みましたが、その他アジア、北米、欧州は好調に推移しました。特に欧州は伝統工芸品を中心としたハイエンド万年筆の好調を維持しており好業績となりました。しかしながら、中国の落ち込みを補えず、売上高 15 億 9 千 3 百万円（前年同期比 4.9%増）となりました。利益面では、製造の効率化による積極的なコストダウン、2 月に実施した製品価格改定効果やプロダクトミックス等で改善傾向にはありましたが、その後の売上減少に伴う固定費率の上昇、依然とし

て続く金地金を中心とした原材料費の著しい高騰による製造原価の上昇を補いきれず、セグメント利益3百万円（前年同期セグメント損失1億5千6百万円）となりました。

（ロボット機器事業）

ロボット機器事業につきましては、海外市場、とりわけ米国における売上拡大を本年度の重点施策として位置付けておりましたが、営業担当者の米国赴任に関する当局の承認手続の遅延等に起因した計画進捗の遅れにより売上を伸ばすことができませんでした。また、米国関税問題に端を発した先行き不透明感による国内各企業の設備投資先送り等により、付随する取出口ロボット・特注自動化装置の受注が減少し、想定以上に厳しい状況が続き、売上高5億2千3百万円（前年同期比8.9%減）となりました。利益につきましては、引き続き原材料費・経費の圧縮に努めてまいりましたが、売上減少の影響で、セグメント損失1億2千3百万円（前年同期セグメント損失1億2千3百万円）となりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は21億1千7百万円となり、期初業績予想に対し14.7%の減少、営業損失1億1千9百万円（期初業績予想 営業損失6千4百万円）となりました。

これらの状況を踏まえ、2025年12月期通期連結業績予想に関しましては、以下の通りに修正いたします。

（文具事業）

国内においては上期に引き続き主要販売店への積極的な販売活動及び販促施策を展開し、特に昨年発売のTUZUシリーズや万年筆新製品を中心に提案を強化してまいります。更に、国内主要店へのフォロー体制を強化するための組織見直しと、オリジナル万年筆やオリジナルインク提案も強化することで売上拡大を図ります。海外においては、欧州で好調な伝統工芸品のハイエンド万年筆新製品を下期にも引き続き拡販し、併せて、北米、欧州及びアジア各国で代理店協力のもとPenShowやイベントなどへ積極的に参加することで、ブランド認知度の向上を目指します。これらの取組を実行の上で、売上は昨年水準を若干上回る予測であり、製品価格改定やコスト削減の効果による利益率改善でセグメント利益回復を見込んでおります。

（ロボット機器事業）

ロボット機器事業においては、進捗が遅れていた米国営業体制の再構築と強化、及び既存顧客の更新需要掘り起しに注力してまいります。また、品質要求が厳しい中、当社の技術力が高く評価され、取出口ロボットや特注自動化装置の納入実績も多い医療機器分野において、顧客内での製品横展開や同業他社への横展開を積極的に提案することで受注拡大を図ります。今後人手不足が一層深刻化することが想定される製造・物流業界に向けて、省人化・無人化を実現する自動化装置の提案も強化してまいります。成果の発現が来期以降となる施策も多いことから、誠に遺憾ながら、今年度通期ではセグメント損失を見込んでおります。

以上により、当年度通期の連結売上高業績予想額は、45億3千7百万円（前回予想比15.0%減）、営業損失1億7千6百万円（前回予想営業利益10百万円）、経常損失1億8千万円（前回予想経常利益8百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失2億6百万円（前回予想当期純利益0百万円）に修正いたします。

（注）この資料に記載しております業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。